

公民館報 まつもと

シリーズ 受け継ぎ伝える松本のたから 52

コロナを吹き飛ばせ!! 古城も一緒にスイング!!

**楽都松本の街が
ジャズで燃えた**

9月19日、土曜日の午後「まつもと街なかジャズフェスティバル」が開催され、街に活気が戻りました。

コロナ禍で沈滞し、人通りが少なかった市内5カ所で同時開催。出演者たちは、2月以降新型コロナウイルスによる自粛から解放され、今年初のライブ。「人前で演奏できてうれしい」と、話していました。

楽都松本の画期的な企画です。

松本城公園の最終ステージでは、ライトアップされた古城と夕暮れが融合。ミュージシャンとギャラリーが一体になり、フェスティバルを楽しんでいました。

スポーツタウンウォーカー



キャラクターが卵から成長します

この取り組みにより、ウォーキングをする人のみならず、推進する人たちにも新たな活動の進展が期待さ

れます。この取り組みにより、ウォーキングをする人のみならず、推進する人たちにも新たな活動の進展が期待さ

市民の参加を促して！
松本市は昨年11月に、ランニングに関する情報サイトを「ランネット」を展開している、株式会社アールビーズと包括連携協定を結び、市民スポーツ発展のために新たな取り組みをスタートさせました。同社が「日本全国DOSポーツ活性化プロジェクト」を昨年立ち上げたことに伴い、松本市がそれに参加しました。このプロジェクトは、スポー

ツに関する豊かな情報を生かし、市民の一層の参加を促し、それを推進する自治体を支援するものです。その一つとしてこの10月に「オクトーバー・ラン&ウォーク2020」が開催されました。ウォーキング部門が今年新設され、累計歩行距離の平均で競う、スポーツタウン対抗戦ウォーキングの部で、松本市は参加124市区町村中38位となりました。特徴としては、ウォーキング専用アプリ「スポーツタウンウォーカー」を使用します。このアプリは誰でもスマホにダウンロードでき、キャラクターの成長や、全国順位を参照するなど、楽しみながら歩数や距離の確認ができます。

魅力を増したウォーキング！

「市民歩こう運動ウォーキングマップ」が作成されてから十
余年が経ち、次第に市民生活にも浸透し、各地区で工夫さ
れたウォーキングが行われています。

小春日の旧野麦街道をめぐり！



コスモスを眺めながら

台風14号のなごりで、やや雲の多い10月11日(日)、大人14人、小学生以下16人が参加して「新の里ウォークラリー」が開催されました。当日朝、新村公民館に集まった参加者は、受付で検温を行い、開会式準備運動の後、バスに分乗してスタート地点に向かいました。スタート地点は新村地区の最西端で、波田地区との境界です。そこからゴールの新村公民館まで約3kmの行程は、ほぼ旧野麦街道を歩くこととなります。

バスを降りると、雲も晴れて、絶好のウォーキング日和となりました。8カ所のチェックポイントでは、一つずつクイズを解答していきます。地区の自然・歴史からの出題で、なかなかの難問ぞろいです。全問正解を目指すある小学生は、各ポイントのスタッフや、通りすがりの住民にも助けを求めるなど、あらゆる手段を使って解答していました。また、街道沿いに点在する石仏、道祖神、堰、旧家の土塀、土蔵などについて、ものぐさ大学理事の解説があり、学びも満載でした。

松本さんぽ

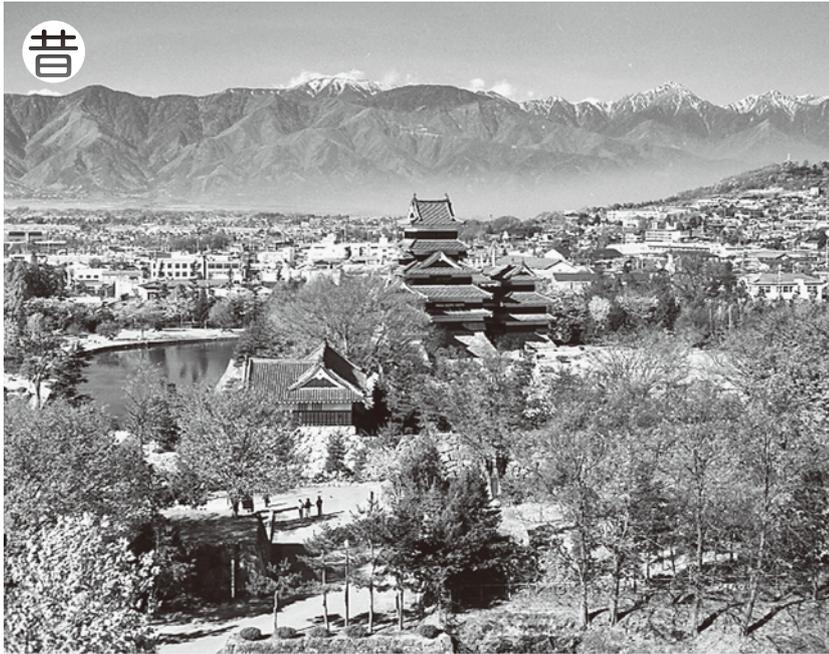
〈穏やかな季節を願って〉

今年記録的な猛暑や長期間の大雨など、とりまく自然に驚かされた。しかし、いつの間にか風は秋の色になり、和らいだ日差しにススキの穂が揺れる季節になった。せめて冬は、穏やかに私たちの生活に寄り添ってほしい。

(撮影：2020.10.25 松本城公園)

地区の世代間交流、地域学習、体力づくりなど、盛りだくさんの貴重な体験が織り込まれ、心地よい疲労感と充実感に包まれたウォーキングでした。

みんなで歩くと楽しいね!



1976年(昭和51年) 11月の松本城(市役所から)

松本城の向こう(西北)側に、児童遊園地がありました。1957年(昭和32年)4月に完成。1987年(昭和62年)廃止までの30年間、当時の子どもたちのお気に入りの場所でした。

まつもと今昔 51

市民の誇り国宝松本城天守の姿は美しく不変と想います。2枚の写真をご覧ください。馴染みのあるお城周辺の景観も、40数年さかのぼるとその変化に驚きます。

アルフスの屏風を背に

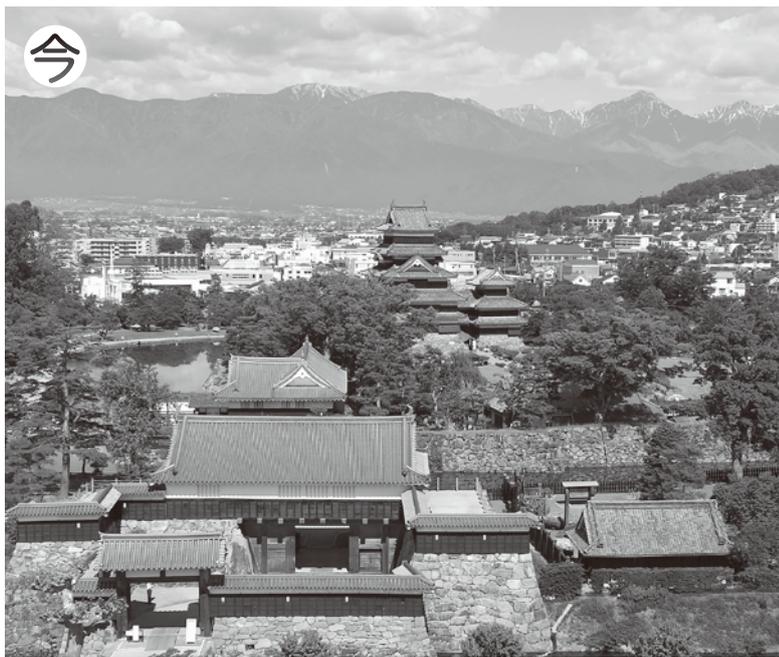
松本城は、400年を超える時代の中、その時々により少し違う表情を見せます。

太鼓門の復原

石垣の修復調査を経て、昭和52年に松本城中央公園整備計画による復原が始まり、平

成4年に太鼓門、そして平成11年に太鼓門枳形の復原が完了し門構えが整います。

松本城は、継続した研究と調査により、幕末の頃の太鼓門が再び現代に蘇りました。



2020年(令和2年) 5月の松本城(復原の太鼓門)

1990年(平成2年)内堀を渡り本丸に入る最初の門、二の門(高麗門)と枳形が復元。太鼓門より先に完成しました。本丸に入る正門・黒門が整いました。

今

わがまち自慢 寿台文化祭

コロナに負けるな! 寿台

令和2年10月25日、寿台文化祭を開催しました。会議を重ね7月に開催を決定、実施に向け知恵を出し合いました。ステーション発表は5団体と少なめに。でも子どもたちのダンスは元気いっぱい。明善中の生徒15人もボランティアとして活躍してくれました。



皆さんはeスポーツ(エレクトロニック・スポーツ)をご存じだろうか。コンピュータゲームなどを複数人で集まって競技するスポーツのことで、日本の認知度は低いですが世界には多くのプロゲーマーがいる。私もこのスポーツの存在を知ったのは1年ほど前だった。その時、コンピューターゲームがスポーツということに違和感と驚きがあった▼スポーツといえば最近テニスを始めた。若い頃に行っていたこともあり、すぐに感覚を取り戻せるものかと思っていた▼だが、ボールがきてても体が思うように反応できない。少し走るだけで呼吸が乱れ汗がとまらない。ボールに追いつくことも出来ず、ついに足の肉離れを起こしてしまった。こんなはずではなかったと思っただけが仕方ない▼私の中でスポーツとは体を動かし汗を流すものかと思っていた。しかしeスポーツは近い将来オリンピックの種目になるかも?とまでいわれている。スポーツに対する認識を時代とともに改めるべきだが、固定観念からなかなか抜けられない。

おこひる

歴史探訪 探ろう松本 20

東部地区

松本城の東に広がる商人、職人の町。そして豊かな水が地域の産業を育みました。

地区の現状

「深志の城をま向かいに／清水の里に立ち並ぶ……」これは清水中学校校歌の一節ですが、かつて第四地区と呼ばれた東部地区は文字通り松本城の東に位置する14町会3100余人の住む地区です。昭和30年の地区人口が約8500人と記録されていますので65年間で人口が3分の1近くに減少し、75歳以上の人口比率が約20パーセント(松本市全体は約15パーセント)と高齢化の進む、駐車場が目立つようになった地区です。

旧町名と名水

松本の旧市街は石川氏の入府に伴う築城と町割に端を発しますが、これに由来する町名が当地区には今も残されています。片端町、出居番町、鍛冶町、餌差町など、住民のなりわいや町の成り立ちがしのべられます。また地区内には鯛萬の井戸、北門大井戸、女



鳥羽の泉、槻井泉神社ほか、井戸や湧き水が多数あり、お茶やコーヒー用等に水をくむ人の姿が絶えません。

水が育てた地域産業

地区内を北から南に流れる川に横田溝渠という目立たない川があるのをご存じでしょうか。江戸時代、この川は紙漉きと呼ばれました。岡宮神社付近で紙漉が始められましたが後に清水の地に製紙業が移転されると記録にあります。



水を汲む方も多い鯛萬の井戸

また現在イオンモールとなっている場所には片倉組松本製糸場が、女鳥羽川対岸には富士電機(株)桜町工場が建てられるなど豊富な水が地域産業を育てました。

「わが町東部」の取り組み

高齢化と空洞化が進み「限界集落」ならぬ「限界町会」という言葉も頭をよぎる東部地区の現状があります。一方で、地区を東西に貫く松本和田線(通称山辺街道)の拡幅工事が進行中で、渋滞緩和が期待されます。松本城周辺整備事業とあわせ、名水と史跡巡りのまち歩きなど周辺の活性化もまた期待するところです。

東部地区では今年、これからの活動テーマを「安心して暮らせる町をつくらう」と決めました。これからテーマに沿った取組みを気負うことなく一つずつ実施していきたいと思えます。

す。時代を経て清水製紙(株)が設立され、東信製紙(株)となり白板に移転しました。

松本平の野鳥たち

両種ともツグミの仲間で、左側がマミチャジナイ(オス)、右側がクロツグミ(オス)。お好みの水場で偶然鉢合わせ。マミチャジナイは春と秋に林に飛来する旅鳥で、冬には東南アジアへ。クロツグミは夏鳥として日本列島へ飛来して繁殖、森林一の歌い手として知られる野鳥。2種が出会うことは珍しい。この勝負はマミチャジナイの勝ち。

マミチャジナイ(左)とクロツグミのケンカ?

これなあに?

奉安庫

市内の家具工房で手入れと修復を受けています

終戦直後まで各学校に設置され、教育勅語が収められていました。6月に塩釜神社の倉庫で発見されました。幅6尺高さ4尺9分(約1.8m×1.5m)で「車知組」といわれる松本独自の木組みが使われています。記録から開智学校のものと思われませんが、断定に至っていません。旧開智学校では当時のことを覚えている方を探しています。

旧開智学校
☎0263-321-5725